

# 議事録

## 令和4年度第2回とよた森づくり委員会

日時：令和4年11月2日（水）午後1時00分～午後5時00分

場所：豊田市役所南庁舎5階 南52会議室

出席者、資料：別紙

### 「第4次豊田市森づくり基本計画策定に関する事項」について

#### (1) 目次（案）

- 特になし

#### (2) 施策体系及び具体的取組（案）

- 質問（横井会長）
  - ・ 「概要」ではなく、「骨子」と捉えてよいか。
- 回答（森林課杉本）
  - ・ 現在、作成を進めている計画書案のポイントをかき出したので「概要」としたが、「骨子」という認識でよい。
- 意見（鈴木（辰）委員）
  - ・ 森林環境税については「動向を注視する」のではなく、徴収開始に伴い、新しい財源を得るタイミングで新しい取組をやっていただきたい。
- 回答（森林課杉本）
  - ・ 様々な課題に対して、必要な取組をしていくことが伝わる表現にしていく。特に課題とする『人材の確保育成』や『持続可能な仕組み（森林離れの改善）』等に有効に活用していく考えである。
- 質問（樋口委員）
  - ・ 森づくりを取り巻く環境の変化（カーボンニュートラル等）と具体的に記載されているが、骨子の段階では幅広く捉えられるような表現の方がふさわしいと思われる。なぜ具体的に挙げたのか。
- 回答（森林課杉本）
  - ・ 森づくりを取り巻く環境の変化だけでは不明瞭なため例を挙げた。計画書の中にはカーボンニュートラル等のように影響が大きいものは記載すべきと考え

- ている。すべては網羅できないが主なものについては、どう対応していくのか考えを記載したい。
- ・ 特にカーボンニュートラルは、二酸化炭素の吸収等の環境面だけを言ってしまうと、ほかの森林が持つ公益的機能に反する面もでてくるのでバランスが重要だと考えている。
  - 意見（樋口委員）
    - ・ 世界的に見たときに取り巻く要因としては、ウッドショックや戦争なども挙げられる。カーボンニュートラルだけでなく、木材の流通や価格など全体的な視点があったほうが良いのではと思った。
  - 意見（横井会長）
    - ・ 今の意見は、具体的に記載しなくてよいという意見と具体的に記載するなら紐づけが必要なのでは、という意見である。
  - 意見（赤堀委員）
    - ・ 人工林の立木密度について、本数で表現しているが、林齢によって変わるのではないか。植えたばかりの3,000本は過密ではないと思う。
  - 回答（森林課井貝）
    - ・ 市内に最も多く存在する、50～60年生の人工林を対象として基準を定めている。
  - 意見（赤堀委員）
    - ・ 50～60年生で400本は健全ステージでよいのか。この基準は様々な施業に関わってくるので、分かりやすくすべきと思う。
    - ・ 図に林齢を記載しておけば、誤解なく捉えることができると思う。
  - 意見（横井会長）
    - ・ 図だけですべてを説明するのは難しいと思う。密度の尺度だが、時間軸が同時にあるので、現在と未来の本数を一緒に記載するのは問題と思われる。この辺りは工夫が必要だと思う。
    - ・ 森林の発達段階によって、同じ本数密度でも意味合いが違ってくる。基本計画でどこまで記載する必要があるのか、このような疑問が出てくるということを念頭に置いて考えていく必要があると思う。
  - 回答（森林課杉本）

- ・ 現構想では本数によってステージ分けをして進捗管理をしているが、これだけで健全と言えるのかというところはある。具体的取組2の『ゾーニングや目標林型の再検討』で内容を精査していき、次期構想で再定義していくという考えである。
- 意見（國友委員）
  - ・ 過去の森づくり委員会でも同様な質問があったので、過去の議事録【事務局補足 [2017年度第2回とよた森づくり委員会議事録及び資料2](#)】を見られると良いと思う。
- 質問（國友委員）
  - ・ 基本理念1の問題2について、航空写真判読があればどの程度間伐されているのかを把握することは容易のように思えるが、そこについてはどうか。
- 回答（森林課小山）
  - ・ 航空写真判読では立木本数の精度が低く、間伐履歴の正確な把握が難しい。
- 意見（國友委員）
  - ・ 間伐履歴について、市は補助金を交付するという立場からも、把握しておかなければならないと思う。

### **(3) 概要（案）**

#### **1 過密人工林の健全化**

- 質問（赤堀委員）
  - ・ 切置き間伐と利用間伐があると思うが、今後利用間伐が増えて、素材生産量が増えるという認識で良いか。
- 回答（森林課小山）
  - ・ 良い。
- 質問（赤堀委員）
  - ・ 例えば2018年に間伐をしたところは10年後に過密になる。40%間伐は強度なので、20年位はもつと考えて良いか。
- 回答（森林課小山）
  - ・ 間伐したところがまたしばらくすると過密になるという認識ではあるが、現構想では、本数で換算するものになるので、本数が少なくなれば当面の間は

健全であるという認識である。

- 意見（赤堀委員）
  - ・ 今後の話だが、森林の健全化という目標がある中で、木を育てる人が森林の健全度を見極める力を身に付ける施策が必要と思われる。
- 意見（横井会長）
  - ・ 過密人工林ありきの話になっているので、数値の目標だけになってしまっている。過密人工林の一掃について議論されているが、これまで実施してきたことへの意味付けをしていくことが大事。また、考え方の整理をしていくことが重要である。
- 回答（森林課杉本）
  - ・ これまでは、過密人工林がたくさんあったので、とにかく手あたり次第に団地化して、間伐すればよかった。
  - ・ しかし、団地化が進んできたため、これからは細かいところを詰めていく段階になると認識している。今回策定する計画の中で、細かい部分を議論していきたいと考えている。
- 意見（水嶋委員）
  - ・ 森づくり会議と団地について、誰がどこに住んでいるかなど、まだ手がついてない地域について名簿を作成していく必要があると思う。
  - ・ 切置き間伐は良くないという方が市内に多くいると感じているので、切置間伐が良いという根拠が必要と思われる。
- 意見（西垣委員）
  - ・ 目標について、現在どこまで間伐が進んでいるかのデータベースがないのに、推定値だけで進めていくことに疑問がある。
- 質問（横井会長）
  - ・ 今までの実績を出していくことはするのか。
- 回答（森林課小山）
  - ・ 次の構想までにデータを整理・蓄積する。今回は今あるデータで議論していきたい。
- 質問（横井会長）
  - ・ この後議論していく他の取組についても同じ状況なのか。

- 回答（森林課杉本）
  - ・ 他の取組の実績については、データが蓄積されている。
  - ・ しかし、間伐の目標については、当初の過密人工林の面積自体が推定であり、間伐を進めてきた結果、森の現状がどうなのか、また、どのような状態が健全なのかなど精度を上げていかなければならない。

## 2 持続可能な森づくりに向けた方針の整備

- 質問（赤堀委員）
  - ・ 現行の40%間伐では針広混交林にならないのか。
- 回答（森林課小山）
  - ・ 間伐率や間伐回数、周囲に母樹が存在するかといった様々な要因によるため、40%間伐だけでは針広混交林になるものではないと考えている。
- 意見（國友委員）
  - ・ 目標林型にするまでの年数等の設定によるのではないかと思う。
- 意見（岡本委員）
  - ・ 母樹の有無が重要と考えるが、豊田市は母樹が少ない。
  - ・ 母樹が少ない場合の考え方としては『豊田市森林保全ガイドライン【本編】』の58頁に小山委員の提言が簡単にまとめられている。
- 意見（鈴木（辰）委員）
  - ・ 公益的機能の発揮は個人のためだけでなく、全体のためのものであることから、公益的機能の発揮が必要な山林は固定資産税免除にしてほしいと思う。
  - ・ 山林を所有しているだけで災害という市民全体へ迷惑をかけるリスクがあるから山林を売却や寄付したいと言う森林所有者がいるのではと思う。
- 意見（片桐副会長）
  - ・ 森林所有者の森林に対する意識が変わってきており、森林を手放したいと考える人も増えてきている。
  - ・ 森林経営管理法や信託など、他者に森林管理を任せる仕組みがある

が、これらも含めて、森林所有者が安心して後世に森林を引き継げるような仕組みづくりをしていく必要がある。

- 質問（片桐副会長）
  - ・ 針広混交林という目標林型は公益的機能を発揮するという根拠があるのか。
- 回答（横井会長）
  - ・ 科学的な根拠は少ないが、最近発行された書籍（「清和研二（2022）『スギと広葉樹の混交林－蘇る生態系サービス』農文協」）には、広葉樹は根が強く、土の状態が良くなることから、水の浄化という面では効果があるとのこと。
  - ・ ただし、間伐すれば針広混交林になるとは限らない。
- 意見（樋口委員）
  - ・ 間伐から 10 年程度経過すると、土壌がスポンジ状になっていると感じる。

### **3 森林情報基盤の整備**

- 質問（横井会長）
  - ・ 森林 GIS に路網の情報は整備してあるのか。
- 回答（森林課山田）
  - ・ 林道は整備済み、作業道は今後整備していく予定。
- 質問（西垣委員）
  - ・ 個人情報の取扱やアクセス権限はどうなっているのか。
- 回答（森林課小山）
  - ・ 団地化については市が責任をもって森林組合と個人情報を共有している。個人情報の問題で団地化や間伐が進まなくなるといことがないようにしていく。

### **4 経済と林地保全のバランスがとれた木材生産**

- 質問（樋口委員）
  - ・ タワーヤードは間伐で使うことに限定しているのか。

- 回答（森林課小山）
  - ・ 基本的には間伐で活用していくが、小規模皆伐での活用の検討も考えていく予定である。
- 質問（樋口委員）
  - ・ 事業規模が大きい場所であり、かつ、その中で小規模皆伐の事業地が合わせてある場所でタワーヤードを導入するのか。
- 回答（森林課小山）
  - ・ スイングヤードでの利用間伐が困難な場所で利用する予定である。
  - ・ 小規模皆伐での事業地はまだ決まっていない。
- 質問（横井会長）
  - ・ 森林組合としてはタワーヤードの使い道をどう想定しているのか。
- 回答（片桐副会長）
  - ・ 魚骨状の列状間伐を中心に実施する予定であるが、技術力が必要と思う。
  - ・ 林業適地でない急傾斜地での皆伐も実施したい。
- 意見（横井会長）
  - ・ タワーヤードは皆伐が主体であるが、全国には間伐で採算性を取れている事例がある。それらの事例から、現場等に即した機械選定を行うことが重要であると思う。
- 回答（森林課小山）
  - ・ 機械選定の検討をした資料があるので後日配布する。
- 質問（樋口委員）
  - ・ タワーヤードを導入したら、路網の作り方が変わるのか。
- 回答（森林課山田）
  - ・ タワーヤードを設置するための路網作りが必要と考えている。視察等で勉強中である。
- 質問（樋口委員）
  - ・ 路網密度が下がるということになるのか。
- 回答（森林課山田）
  - ・ 搬出路が不要となるため、路網密度は下がる。
- 意見（岡本委員）

- ・ 地形条件的に路網を入れることができないところに架線系を入れたという事例があるので、路網を入れることができるかという視点が重要になると思う。
- ・ 路網を入れた結果として、斜面崩壊が生じて、人的、物的被害が出るのが一番避けたい。このため、GISの赤色立体図、CS立体図を上手く活用するとともに、現地の土層の状態、樹木の変形状態を良く確認して、路網を入れることができる地形なのかどうかを判断することが必要である。

## 5 効率的な林業路網の管理と整備

- 意見（岡本委員）
  - ・ GISの赤色立体図やCS立体図をうまく活用して省力化すると良い。
  - ・ 排水施設の点検について、始まりの段階なので色々試行してデータを蓄積すれば、どのような時期、サイクルで点検することが必要かわかってくる。事例を増やして省力化に取り組んでもらいたい。
- 質問（横井会長）
  - ・ 作業道の水処理について何か考え方を持っているのか。
- 回答（森林課山田）
  - ・ 波型線形で小流域ごとに排水する設計を心掛けている。
  - ・ シスイエースというゴム板を木の板で挟んだ横断排水を50mに1箇所のスパンで設置しているが、急傾斜地ではうまくいっていない。コンクリート土のう等といった代替案を考えていきたい。

## 6 森林資源を最大限活用する加工・流通体制の構築

- 意見（樋口委員）
  - ・ 「7 公共施設における木造・木質化の推進」はこの項目に含まれるのではないだろうか。
  - ・ 市の公共建築の計画と、素材生産の計画を合わせる必要があるため、流通体制の構築となると同じ範ちゅうのものであると思う。
- 意見（横井会長）
  - ・ 川下で使われる部分と、そこへ向けて流通させていく部分を今回は切り分けているということだが、流れがあつてのものだから繋げることもできる。

- 回答（森林課安川）
  - ・ 6は川中の内容で、7は川中から川下へ向かっていく内容という形で整理した。
- 意見（横井会長）
  - ・ 構成は市で考えるとし、今回は資料のとおり切り分けて話を進める。
- 意見（水嶋委員）
  - ・ 豊田市産材というブランディングはあるが、それが市内のどの地域なのかはわからない状況なので、わかるようになれば買う側としては説得力が増すと思う。
- 質問（森林課杉本）
  - ・ 産地が詳しくわかるとどのようなことができるかアイデアはあるのか。
- 意見（水嶋委員）
  - ・ 産地による材質の違いがあるかもしれない。こういう部材にはここの産地の材が良いといえるような特徴があるかもしれない。わかる人は、木肌や年輪を見れば育ってきた環境がわかる。木を使うのにこだわりのある人からするとうれしい情報である。
- 意見（赤堀委員）
  - ・ 資源利用の観点からすると、どこの山にどのような木があるのかというデータを作るのは長い目で見たら必要である。一例だが、路網作設時の支障木伐採時に伐採木のデータを管理しているところもある。支障木の特性を解析すると周辺の木の特性も類推できる。ここまでのデータを求めるかという議論になるが参考までに。

## 7 さらに地域材の利用拡大

- 意見（樋口委員）
  - ・ 公共建築においては、計画が決まってからの木材の調達に苦労する。設計の段階で山に適した設計であればコスト面に対応できる。市がある程度の規模を先行発注で買い取って材料を準備したこともあったが、今は製材工場をもとにした計画になっていると思う。建築コストと山への気を使った時のメリットを整理すると6で一括りにしたほうが良いと思う。
  - ・ 公共建築であれば、伐採予定の木材と建築予定の建物を紐づけできる。一

般流通材ではないものを作る場合、生産量勝負の製材工場からすると負担が大きくコストも上がる。山から出てくる木だけでなく、加工等の全体を見るべきである。

- ・ どうすれば市民に公共建築の木造化の素晴らしさを伝えていけるかを考えたほうが良いと思う。
- ・ 民間の施設については、民間と山のパートナーを広げる、といった言い方に切り替えることが良いと思う。

● 回答（森林課小山）

- ・ 公共建築について、ここ数年は西垣林業と森林課から公共建築発注部門へなるべく一般流通材で設計するようお願いしている。
- ・ また、特殊材であれば早めに注文するようお願いしている。そうすることで森林組合に早めに特殊材用の木を伐ってもらえることができる。博物館級の大きな建物についてはそのような話をしている。交流館やこども園、小学校の増築等は流通材で施工しており、少しずつ課題が解消されてきていると認識している。

● 赤堀委員

- ・ 6と7が分かれている意味がいま一つわからない。公共建築と製材工場を関連付けた話もあり、6と7が分かれているとわかりづらいという印象を持つ。

● 回答（森林課杉本）

- ・ 分かれている理由は、木材の大きい流れと小さい流れが違うと思っているため。製材工場誘致の時に大きな流れができると小さな流れができ、森林資源の活用が進むという想定があった。川上から川中へ材を出す流れと捉えたときに6のまとめ方が良いと思った。7は川下の話で、豊田市産材というブランディングで市場を作っていく中で、市民の意識の状態もあるが、豊田市産材の市場で業として安定してやっていくという面や、産業振興や二酸化炭素固定化などを挙げるために切り分けたほうがよいという考えである。

● 意見（赤堀委員）

- ・ 豊田市産材の普及啓発、利用促進と西垣林業との取組が分かれてしまう印象がある。大きな流れからできた小さな流れを取り込んだ一つの項目とす

るほうがわかりやすいと思う。

- 回答（森林課杉本）

- ・ 項目を分けたからと言ってバラバラになってしまうことはないが、どのような見方で整理するか、見た人への伝わりやすさというところで柱立てはまだ検討の余地がある。

## 8 山村振興と森づくりとの融合

- 意見（鈴木（辰））

- ・ 地域づくりと一体となった森づくりという理念が 15 年前にあったことはすごいことだと思うが、何もやっていないのが現実である。次の計画で具現化することで計画の目玉となってほしい。
- ・ 計画の前提は村が 30-40 年後も存続している前提だが、半分かりの森づくり会議は破綻していると思うので、次の構想ではそこについて触れる必要がある。会議が小さくなって他と合体するような流れになると思う。
- ・ 行政機関の都合で、地域に様々な団体を作らないといけないという制度は現実的でない。森林施策においては自治会に森林部をつくれば良いなど、小さくなっていく村の実情に沿った制度にしてほしい。
- ・ 家周りの大径木の伐倒について、防災対策課または森林課で対応するといった制度を森林環境譲与税により構築できないか。
- ・ ライフライン伐採や田んぼ周りの邪魔な木の伐採は皆伐となるが、植林しないことを認めてほしい。今回の計画でできなくても実験的なことをして次に繋げることができれば良いと思う。

- 意見（水嶋委員）

- ・ 地域で空き家が増えて、空き家のほったらかしが問題になっている。売ったとしてもお金にならず、持っていて困らないので持っている状況だが、腐食して悪い環境になって過疎化が進行してしまう。空き家の需要は多いと聞くので、森づくりの情報を駆使して空き家を活用し、地域づくりに貢献できないだろうか。

- 回答（森林課杉本）

- ・ この項目は地域振興の領域に踏み込んでいると感じている。行政の縦割りではなく横の連携が大事である。地域の実情は認識している。今は知見の

蓄積によって何ができるかを検討する段階であり、モデル地区での実情を参考に次のステップへ進んでいきたい。

## 9 森づくり人材の確保・育成

- 質問（赤堀委員）
  - ・ 外部の専門機関とは、今回の森づくり委員会ではないのか。
- 回答（森林課小山）
  - ・ 森づくり委員会も含めている。今まで森づくり委員会以外から意見を聞くことがなかったので、その他の外部機関からの意見も取り入れたいと考えている。
- 質問（赤堀委員）
  - ・ 仕組みを構築するのではなく、もっと色んなところから積極的に幅広く聞くということか。
- 回答（森林課杉本）
  - ・ そういうことである。
- 意見（赤堀委員）
  - ・ 豊田市は既に仕組みはできているので、今後はより積極的に行っていくという表現をしたほうがよい。仕組みが無いように捉えられる可能性がある。
- 回答（森林課杉本）
  - ・ 仕組みというほどの大袈裟なものではないが、例えば、職員が持っている情報が共有されていない。そこで、分野別に専門家をリストアップすることと、専門家に頻繁に意見を聞いたり、現場で指導してもらうような予算を確保することにより、使いやすい仕組みにかえていく。
- 意見（横井会長）
  - ・ 内部の市の専門職員の役割、人材育成と外部との関わりを基本計画に記載しておくこと、予算の確保や人材を活用しやすくなり、内部の職員の意識も高くなる。また、森林課の中で専門職の中でもさらに専門職とするのか、総合職とするのかといった方向性があれば記載しておくことと良いと思う。
- 回答（森林課杉本）
  - ・ 外部だけでなく内部の人材についても捉えていく。

- 意見（赤堀委員）
  - ・ 加工流通部門では人材育成の施策が国のほうではないが、重要なセクターのため、視野に入れておくと良いと思う。一例を挙げると目立て研磨の職人が少なくなっている。
- 意見（樋口委員）
  - ・ 市内に目立て業者が一者いて、西垣林業も依頼している。
  - ・ 大工や木工職人も少なくなっており、支援が必要である。森林文化アカデミー等の大学とは関わりがあり人の往来はあると思うが、民間の建築業者の大工に支援があるといったことはない。そういうところに支援があると良いが中々難しいところではあると思う。
- 意見（赤堀委員）
  - ・ 樋口委員から紹介のあった、難しいとされている職種の人材育成も森林整備を行う上では必要な人材という認識が重要だと思う。
- 意見（國友委員）
  - ・ 6と7をくっつけないといけぬのか腑に落ちていなかった。公益的機能の発揮といった市民の命を守ることに繋がる森をつくるのが市の最大の役目である。木材を売っていくところは、山の公益的機能のことも考えつつ利益追求で民間主体により実施すべき分野だと思う。そこに市税を使って森林課が取り組んでいくかどうかについて、森づくり構想の中でもターニングポイントとなると思う。
- 回答（森林課杉本）
  - ・ 経済合理性のところを市がどこまでやるのかについて、課の中でも公益的要素の強い森林整備と産業振興では質が違い、関わり方やお金の出し方が違うため、分けて考える必要があると話している。
  - ・ 今までは公的なところを中心にやっていたが、ようやく産業や地域づくりも視野に入ってきた段階である。森づくり構想の中でも織り込み済みで、公益的機能が発揮される森づくりを持続していこうとなると、地域や生業と融合していく仕組みを少しでも作っていかないといけない。元々は地域や生業で人工林整備が成り立っていたものがなくなってしまったから現在のようになっている。それをどこまでもとの姿に戻せるかについて構想に

織り込まれていると思っているので、これから探っていくところである。民間がやるべきこと、公的にやるべきこと、公的な関与や支援が必要なことについて見極めていくことが必要であり、次期構想に反映するための第4次計画という考えである。

- 意見（西垣委員）
  - ・ 研修施設設立の可能性検討について期待している。働きながら林業や製材のことを学べる環境がほしい。現在は三重県のみえ森林・林業アカデミーに年間15日や30日通っている。愛知県にも勉強できる環境があると助かる。
- 意見（横井会長）
  - ・ みえ森林・林業アカデミーは働きながら学べるので、岐阜県森林文化アカデミーと違い休職する必要がない。
- 回答（森林課杉本）
  - ・ 現状は岐阜県森林文化アカデミーや長野県林業大学校といった他県に人材育成を頼っており、常に受け入れてもらえるかは未確定である。自前の育成システムの有無は今後のポイントだと思う。
- 意見（横井会長）
  - ・ 全国的にも市町で研修施設を設立しているところがあるので、豊田市がやる必要があるのか等について様々な可能性を議論していくことはできると思う。

## 10 森林環境教育による市民理解の醸成

- 質問（横井会長）
  - ・ ソフト的な話が記載されていると思うが、こういった活動をする場所（木遊館やMORINOS等）があると活動しやすい。市で場所をつくるという考えはあるのか。
- 回答（森林課安川）
  - ・ 場所をつくるのはハードルが高く、現時点で記載できないことがないが、市有林の提供や森林環境教育を行う団体の育成という面で補助金や活動支援を図っていきたいと思う。

- 回答（森林課杉本）
  - ・ 森林環境教育を行うにあたって、市主催だけでは規模化できないことや、多様性に欠けることが問題としてあるので、市民団体や民間事業で森林を使った取組をされている人も参画できるように展開している。
  - ・ 既存の公共施設を有効活用して、使いやすくするといった支援も今やりかけている。

## 1 1 共働による森づくりの推進

- 意見（森林課杉本）
  - ・ 企業からの相談がよくある。今までは市民との共働が中心であったが、これからは企業との共働が増えてくると考えられる。
- 意見（樋口委員）
  - ・ ウッディーラーでも月一回以上、民間企業や個人から地元のものを使いたいと相談がある。市で一層サポートがあると共働が促進されると思う。
  - ・ 社有林を持っていてもどうしたらよいかわからず、困っているケースが多い。
- 意見（西垣委員）
  - ・ 大企業が森林に目を向けていることはありがたいことだと思う。
  - ・ 西垣林業にも社有林の活用方法の相談が来るようになった。上手に森づくりに繋がれるようになっていくと思う。
- 意見（國友委員）
  - ・ トヨタ自動車の社有林にも里山や生物多様性の保全方法について、企業から見学に来ることが多い。
- 意見（横井会長）
  - ・ 多くの事例があり、市は仲介役となれる立場だと思う。
- 回答（森林課杉本）
  - ・ ここ最近、企業の森林への関心が高まっているのでうまく対応することが重要だと思う。
  - ・ 市有林の活用については、管理のルールがないので、まずはルールを整理して、様々な有効活用ができるようにという方針で進めている。

## 連絡事項

- ・ 本日、発言できなかったご意見などについては、改めて担当から照会させていただく。
- ・ 今回の委員会でいただいたご意見については、次回の森づくり委員会で提案する基本計画（案）に反映する。
- ・ 本日の会議録については、事務局で作成でき次第、各委員に内容を確認する。
- ・ 次回の森づくり委員会は、1月19日の開催を予定する。

以上